

三宅島新報

発行所：三宅島ふるさと
再生ネットワーク
〒173-0005
東京都板橋区仲宿2-1
Tel. 090-4922-0798
発行人：会長 佐藤就之

事務局便り

○本部・事務局移転のお知らせ
「ふるさとネット」の三宅島本部と東京事務局を佐藤会長の転居により統合して下記の通り移転します。

新住所
[本部・事務局]
〒173-0005
東京都板橋区
仲宿2番地1
携帯：090-4922-0798
(佐藤就之)

FAX：03-3964-4065

[三宅島支部]
〒100-1101
東京都三宅島三宅村
神着1391番地
携帯：080-192-5459
(光安千久子)

神楽坂あおぞら市

・5月17日(日)
・12時より(雨天中止)
・ふるさとネットが
・三宅島特産店を販売
・明日葉、竹の子、く
・さや等、たくさん揃
・えました。
・有名商店街です、遊
・びがてらお出でくだ
・さい！お待ちしております。
・※東京メトロ東西線
・神楽坂駅下車1番口
・すぐ、またはJR中央
・線飯田橋駅下車約徒
・歩20分

平成26年度版 管内概要より

貴重な文化財 再認識を

三宅島の文化財

区 分	文 化 財 名	備 考
有形文化財	彫 刻	善光寺式阿弥陀如来像 伊豆(普濟院)
	工 芸 品	バイキング号キャブスタンを台座にした灯籠と鐘 稲根神社境内
		普濟院銅甕 伊豆(普濟院)
		ヨイト船 伊ヶ谷
		刀剣 阿古
		御笏神社御刀 神着(御笏神社)
	古 文 書	小金井小次郎自筆証文(2通) 伊豆
		井上正鉄の書 伊ヶ谷
	旧 跡	竹内式部の墓 伊ヶ谷(大林寺)
		不受不施派僧の墓 伊豆、伊ヶ谷
		小金井小次郎の首切り地蔵 伊豆(普濟院)
		井上正鉄の墓 伊ヶ谷
		生島新五郎の墓 伊ヶ谷
		小金井小次郎建立の地蔵尊 伊豆(曾利川墓地)
		小金井小次郎井戸 伊豆
天然記念物	大踏藁	大踏池
	迷子権	大踏湖畔
	普濟院の大桜	伊豆(普濟院)
	普濟院の蘇鉄	伊豆(普濟院)
	ハコネコメツツジ	雄山山頂
	リュウビンタイ	神着地区
	オオシマハイネズ	阿古海岸地帯
	ミヤケコガラ	三宅島一円
	オーストンヤマガラ	三宅島一円
	タネコマドリ	三宅島一円
	モスケミソザイ	三宅島一円
	ウチヤマセンニュウ	三宅島一円
	シチトウメジロ	三宅島一円
	御蔵の大ジイ	御蔵島村
		南郷上原

平成26年度版三宅支庁の管内概要に關しては、元三宅島支庁総務課長であった齋藤實氏に分析をお願いする予定だったが、突然のご逝去により叶わなくなった。そこで今回は、その中から島の文化財の一部を紹介、島を振り返る機会にしてほしい。(佐藤)

東京都三宅支庁の「26年度版 管内概要」が今年になって発表された。三宅島の重要なデイトーが網羅されている。実は、この稿は、元東京都職員で三宅島支庁総務課課長であった齋藤實・

危機管理勉強会塾長が三回にわたり書いてくださったが残念なことに突然お亡くなりになってしまった。

齋藤様には、三宅・沖ヶ平元高濃度地区が前村長

の時に頓挫してしまった復興策について、相談をしており、街づくりの専門家も同伴して島を訪れたりした矢先のことであった。

捨てたものでない自然

今回は、春、夏の観光シーズンを控えて「三宅島の指定文化財」の一部を紹介したい。

文化財には、坪田、海

また東京都指定は、無形民俗文化財として神事や踊り、8月の富賀神社の巡り神輿、7月の御笏神社の神事など多数指定されている。右記の一覧は、三宅村指定であるが天然記念物が多い。

アカコッコ館や都の農林水産総合センタ―を訪ねて聞くこともできる。島に来る観光客は釣ウチやイルカ主流となつていないのだ。

ふるさとネット 27 年度総会を実施

本部の移転などを承認

⑤ 島内での活動強化など
活動等の協力の呼びかけ
交流と広がり④ご寄付・
あいこーる③支援者層の
全国情報発信活動②ふれ
は、①三宅島噴火災害の

の重点を平成26年度総会
で決めた。
情報発信の中軸は、「三
宅島新報」とホームページ
である。新報はDTP
Aの努力で隔月発行を続
けることが出来た。3月

1日号は、新報50号特集
号で1面にNHK解説委
員の山崎登さんにご寄稿
を頂き「災害と情報の役
割」が提起された。
また平成27年3月1
日、第56号は帰島10周年

記念号で、災害を風化さ
せないために、京町（ミ
ヤコ）さんと、永井タケ
子さんに、噴火当時と長
期全島避難で帰島できな
かった、母の無念を綴っ
てもらった。ネットの協
力で、東京新聞、毎日新
聞などマスコミ各社も数
回にわたり帰島10周年の
支連報道がなされた。

日本舞踊家の鶴吉師匠が
主催して「がんばれ！ふ
るさと」完全復興 三宅
島・東日本・伊豆大島」
のチャリティイベントが
盛大に開かれた。
一方で残念なのは、9
月に阪神・淡路の黒田裕
子さん、12月に危機管理
勉強会齋藤さんが死去
されたことである。謹ん
で追悼の意を表したい。

前年度の 取り組み

災害情報の発信など確実に 黒田さん 齋藤さんに追悼の意

ふるさとネットは、4月11日に巣鴨の喫茶ルノアールで総会を開催した。この中で平成26年度の活動報告、および27年度の活動方針が承認された。今年度の活動としては、本部を島からの移転する中でも島内活動の充実を図ることや、これまで行ってきた「ふれあいコール」の継続などが示された。

平成26年度の活動報告

4月	12日（土）総会 あおぞら市打ち合わせ
5月	三宅島新報第51号発行 ふるさとだより発行 神楽坂あおぞら市打ち合わせ 18日（日）神楽坂あおぞら市に出店
6月	7日（土）第36回世話人会 18:30～20:30
7月	三宅島新報第52号発行 ふるさとだより発行
9月	三宅島新報第53号発行 ふるさとだより発行 6日（土）第37回世話人会 18:30～20:30 神楽坂青空フェスタ打ち合わせ
10月	神楽坂青空フェスタに出店 →台風のため中止
11月	三宅島新報第54号発行 ふるさとだより発行 支援者の集い出欠確認（新報と共に葉書き郵送） 8日（土）第38回世話人会 18:30～20:30
12月	ふれあいコール 13日（土）三宅島支援者の集い 19:00～21:00
1月	三宅島新報第55号発行 ふるさとだより発行
3月	三宅島新報第56号発行 ふるさとだより発行 16日（月）第39回世話人会 18:30～20:30

平成27年度の方針

島内の活動メンバーと話し合って

①帰島10周年、噴火災害15周年を迎えて、組織再編を次の通り行う。

第一に、三宅島の佐藤会長が東京都板橋区に転居する為に、本部・事務局を統合し移転する。本部・事務局を、〒173-0005 東京都板橋区2-1 佐藤

就之会長宅（☎09047220798・FAX0339644065）に。それに伴い、三宅島支部を次に設置する。〒1001101 東京都三宅島三宅村神着1391 光安千久子副会長・三宅島支部長宅（☎080

11925459）。②情報活動では「三宅島新報」を、年に4回、季刊号（5月1日、7月1日、10月1日、1月1日）とする。HPで最新情報として三宅島と各地の被災地の情報を充実する。

③イベント関係では、5月の神楽坂あおぞら市に参加し年一回とする。また「三宅島支援者の集い」の開催について世話人会で検討する。

④「ふれあいコール」在京者訪問活動」など在京者に対する情報発信や悩みなどに対応する活動を継続する。

⑤三宅島での活動を今後どうするか、在島のネット会員等とも話し合いを行う。

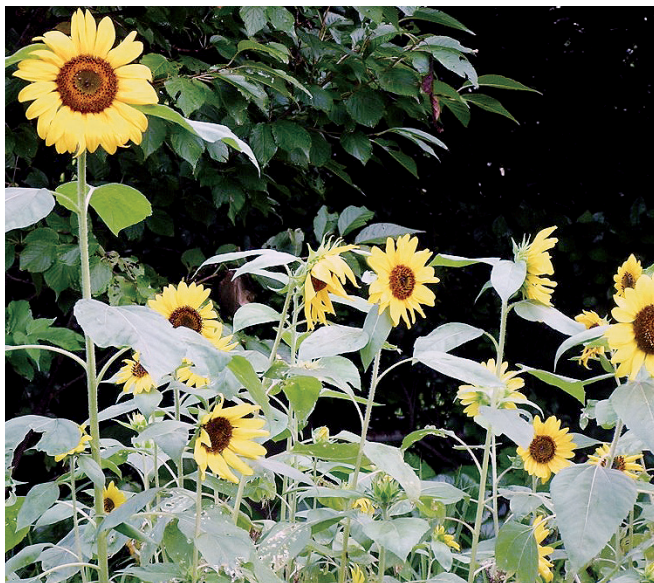
再生・復興に関する専門家、ボランティアや島内外の交流について強化をする。現在のマスコミ等との連携については、

三宅島の災害を風化させないために重要である。佐藤会長と光安副会長を窓口にして継続をはかりたい。

⑥今後の中・長期取り組みとして、昭和期の20年周期の噴火災害の発生の方針を注視しながら、今回の前例のない2000年噴火災害の記録を被災者の立場から記録にとどめ、今後の各種災害の教訓としなければならぬ。

協力者を求め取り組みを始めた。⑦15年間の三宅島噴火災害の長期化により島内ネット会員の死亡や高齢化、また同じくボランティアや支援者も世代交代が進んでいる。これからもふるさとネットを継続するためには、一段と努力がいる。

特に、活動を継続していくためには、支援者の物心両面のご支援が重要となります。今後も皆さまのご寄付と活動参加の支援を賜る中で、我々も努力を積み上げていきますので、よろしく願います。



神戸からのひまわりは三宅島で咲き続けている。被災地の連帯が続く

収入の部	26年度予算	26年度決算	27年度予算
寄付金	653,000	556,432	550,000
活動収入	235,000	200,210	156,000
雑収入	0	135	0
前期繰越金	119,747	119,747	130,248
収入合計	1,007,747	876,524	836,248

支出の部	26年度予算	26年度決算	27年度予算案
新報費	890,000	654,376	660,000
訪問活動費	0	0	0
活動費	55,000	105,756	105,000
会議費	14,000	10,069	13,000
事務備品費	0	1,069	1,100
通信費	33,000	33,150	33,200
渉外費	0	0	0
雑支出	15,747	17,910	23,948
支出計	1,007,747	822,636	836,248
次期繰越金	0	130,248	0
合計	1,007,747	952,884	836,248

ふるさとネット26年度決算・27年度予算

平成27年度役員

会長 佐藤就之

副会長 酒井一豊

光安千久子（三宅島支部長）

事務局長 栗原未帆

事務局次長 山中恵美子

会計事務 板倉美紀子

世話人

吉田信行 菊池忠男 増田奈穂子

京町 横田和之 小高由美子

山田貴久 森啓予 青木健史

監査 中嶋香保子 真壁舞

（順不同・敬称略）

◎お礼とご報告

ふるさとネット会長 佐藤就之

母の見守りと介護のために単身で、約20年間、三宅島に帰郷しましたが、この度、4月より東京都板橋区に戻ることになりました。全島避難中は、三宅島島民連絡会の会長、帰島後は、ふるさとネット会長、神着老人クラブ会長など重責を担ってきました。この間、皆さまには様々なご協力とご支援を頂きました。改めて御礼を申し上げます。

一旦は、三宅島を離れますが、近い将来には三宅島の地に戻れたらと願っています。

今後とも変わらぬお付き合いをお願いいたします。

◎ご寄付のお願い

日ごろの皆様のご協力に深く感謝申し上げます。

三宅島も2月に帰島10周年を迎えました。また2000年6月噴火、9月の全島避難から15周年を迎えようとしています。これほど噴火災害が長期化した例はありません。しかし、この災害にひるむことなく帰島島民、帰りたくても帰れなかった在京者ともども頑張っています。それはご支援を続けてくださっている皆さまの支えがなによりの励ましとなっているからです。

また恐縮でございますが、皆さまにご寄付をお願いいたしたいと存じます。よろしくをお願いいたします。

【ご寄付者名】

吉田信行様、倉持房枝様、遠藤文代様、光安千久子様、白石チズ子様
※平成27年2月3日から平成27年4月17日まで。有難うございました。

観光客増のために 夏に向けて様々なイベントが



全島避難からの帰島10周年を迎えた三宅島。観光客の数は噴火前の約半数にまで落ち込んでいる。今年度は、夏に向けて行われる様々なイベントを通じて、来島者の数を増やすことが、今後の島の復興に向けてこれまで以上に大切な取り組みとなる。

イルカと泳げるのも大きな魅力

三宅島は、帰島10周年行事を年間を通じて各種イベントを企画し実施している。6月には、坪田の多目的ホール（2008名収容）、郵便局、出張所を併用する施設を竣工予定である。それを10周年記念行事にしたいとしている。また年間を通じて毎月10日にふるさとのお湯の無料化、小笠原旅行、7月末のマリンスコールにも村が力を入れていく。今年度は、7月連休に神着の御筋神社の神輿、8月の巡りから富賀神社の

の18年。観光客は、帰島後の3万3千489名に達した。25年には3万3千489名に達した。25年には3万3千489名に達した。

落ち込んでいたが、10周年を期して上向きにしたいものだ。ぜひ三宅島へ！

DTPA元会長が結婚 佐藤さんご夫妻も祝福



披露宴会場で会長ご夫婦と

ふるさとネットの世話人で、本紙を編集するDTPAの会員（元会長）の山尾（旧姓）啓予さんの結婚式が、3月14日に東京都中央区にあるヴェルデモッサ銀座で行われた。お相手は同じ会社勤務の森啓太郎さん。式と披露宴は親族や大勢の友人等に見守られ、華やかに、そして和やかな

雰囲気の中で行われた。啓予さんと三宅島の繋がりは、啓予さんが高校生のときに、所属していた新聞委員会の活動を通じて取材をしたのがきっかけで始まった。その後も本紙の編集のみならず、ふるさとネットが神楽坂で行われているあおぞら市に出店をするきっかけをつくるなど、幅広い支援活動が続けてきた。式には佐藤就之会長と宗ノ子夫人も参列し、二人の門出を祝った。

編集後記

今号では、三宅島の文化財やふるさとネットの平成27年度総会、夏のイベントに関する記事を掲載しました。そのほか、DTPA元会長の結婚に関する記事も掲載させていただいた。内容になりました。これから夏に向けて、多くの観光客が三宅島を訪ねてくれることを願っています。

(DTPA一同)